

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤
専門科目	必修科目	オルガン実技Ⅰ								●			●	●
		オルガン実技Ⅱ								●			●	●
		オルガン実技Ⅲ								●			●	●
		オルガン実技Ⅳ								●			●	●
		オルガン様式研究Ⅰ								●			●	●
		オルガン様式研究Ⅱ								●			●	●
		オルガン様式研究Ⅲ								●			●	●
		オルガン様式研究Ⅳ								●			●	●
		オルガン研究発表Ⅰ								●			●	●
		オルガン研究発表Ⅱ								●			●	●
		オルガン研究発表Ⅲ								●			●	●
		オルガン研究発表Ⅳ								●			●	●
		オルガン概論								●			●	●
		オルガン通奏低音実習Ⅰ								●			●	●
		オルガン通奏低音実習Ⅱ								●			●	●
		オルガンアンサンブルⅢ								●			●	●
		オルガンアンサンブルⅣ								●			●	●
		オルガン即興実技Ⅲ								●			●	●
		オルガン即興実技Ⅳ								●			●	●
		学内演奏(Org)								●			●	●
	卒業演奏(Org)								●			●	●	
	西洋音楽史										●		●	
	和声初級									●	●			
和声中級									●	●				
対位法									●	●				
ソルフェージュA									●					
選択科目	副科チェンバロ									●		●	●	
	古典舞踏									●		●		
	鍵盤音楽史									●	●			
	和声上級									●	●			
	古楽ソルフェージュ									●				
	副科ピアノⅡ									●		●	●	
共通科目	一般教養科目										●			
	専門基礎科目										●			
	外国語科目												●	

オルガン科の学生は「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者を養成する」という東京藝術大学の使命のもと、以下のような実践的な授業を受講することができます。

- 実技科目**
- (1)個人レッスンを中心としたオルガン奏法の研究と演奏解釈  
 オルガン専攻の個人レッスンでは、それぞれの学生の資質や目標に合わせた授業が行われます。オルガニストとして必要な基本的な知識—作品の様式感や時代背景、オルガンの歴史・楽器の構造について等を学びます。年に2回の研究発表や、学年末試験、学内演奏会、卒業演奏会などを通じて、演奏の実践を積みみます。
- (2)通奏低音、アンサンブル、即興実技などの授業  
 バロック時代の技法である通奏低音を学び、他の楽器との合奏を学びます。また、3年次以降は、オルガンの原点である即興演奏を学びます。

**カリキュラム**

1年次では基礎的な技術を育むため、教室にある時代様式の異なるオルガンをもちいてレッスンをを行います。また、オルガン概論というオルガンの楽器の構造についての授業で学びます。2年次以降は、主に奏楽堂のオルガンを用いたレッスンを行い、オルガンらしい響きを体験しつつ、様々な様式の作品の習得を目指します。4年間を通じて、様式研究という授業で、オルガンの地域別のあらゆるレパートリーについて、演奏習慣を学びます。4年次前期には、自主性を重んじた選曲による「学内演奏会」が、4年次後期には4年間の集大成としての「卒業演奏」が、それぞれ奏楽堂で行われます。また各学年末には、3年次に「安宅賞」、4年次に「アカンサス音楽賞」の選考も行われます。そのほか音楽家としての基礎を築く科目として、ソルフェージュや和声等の基盤的科目、国際的なコミュニケーションや留学、文献研究等に必要外国語や、専門基礎科目、教養科目を学びます。同じ鍵盤楽器でありバロック時代オルガニストが演奏していたチェンバロ、ロマン派以降のレパートリーに必須な技術を習得することに役立つピアノは選択科目として学ぶことが可能で、その他のいくつかの楽器の副科も自由科目として履修することができます。また主に国外からの講師を招いての「特別講座」も頻繁に行われます。

大学院では、学部で培った演奏技術や音楽表現をさらに高度なものに発展させ、プロフェッショナルな音楽家としての自立を目指します。また学部を引き続き、「専攻実技」として個人レッスンをを行い、加えて「楽曲分析演習」として、高度に専門的かつ広範な視野に立ち、深い学識を得るために研究します。1年次には、「修士リサイタル」を行い、研究テーマに則したプログラムを演奏します。

また、「器楽特殊研究」では、オルガンに関する原語講読を行い、知識を深め幅広く研究することができます。論文執筆については、「オルガン音楽分析演習」「音楽リサーチ法」「原典特殊講義」などの授業により研究することができます。関連知識を深めるために、選択科目としては「学部開設科目」「他専攻の授業科目」を履修することもできます。

学位取得において、演奏審査と論文審査の両方が学位審査会において評価され、合格した者には、「修士（音楽）」の学位が授与されます。